



# 左京区北部山間地域の将来像 検討に向けたワークショップ

2026年3月7日(土)

## まとめ報告会

別所・花脊・広河原地域

実施日：2025年12月14日（日）

地域住民の声から描く、地域の将来像づくりに向けて

主催：左京北部山間地域自治連絡協議会

共催：左京区役所

運営・分析：特定非営利活動法人きょうとNPOセンター



# 本会の目的と地域の基礎情報

## ◎ 開催目的

左京区の北部山間地域は、豊かな魅力と資源にあふれる一方で、人口減少や高齢化といった課題にも直面しています。

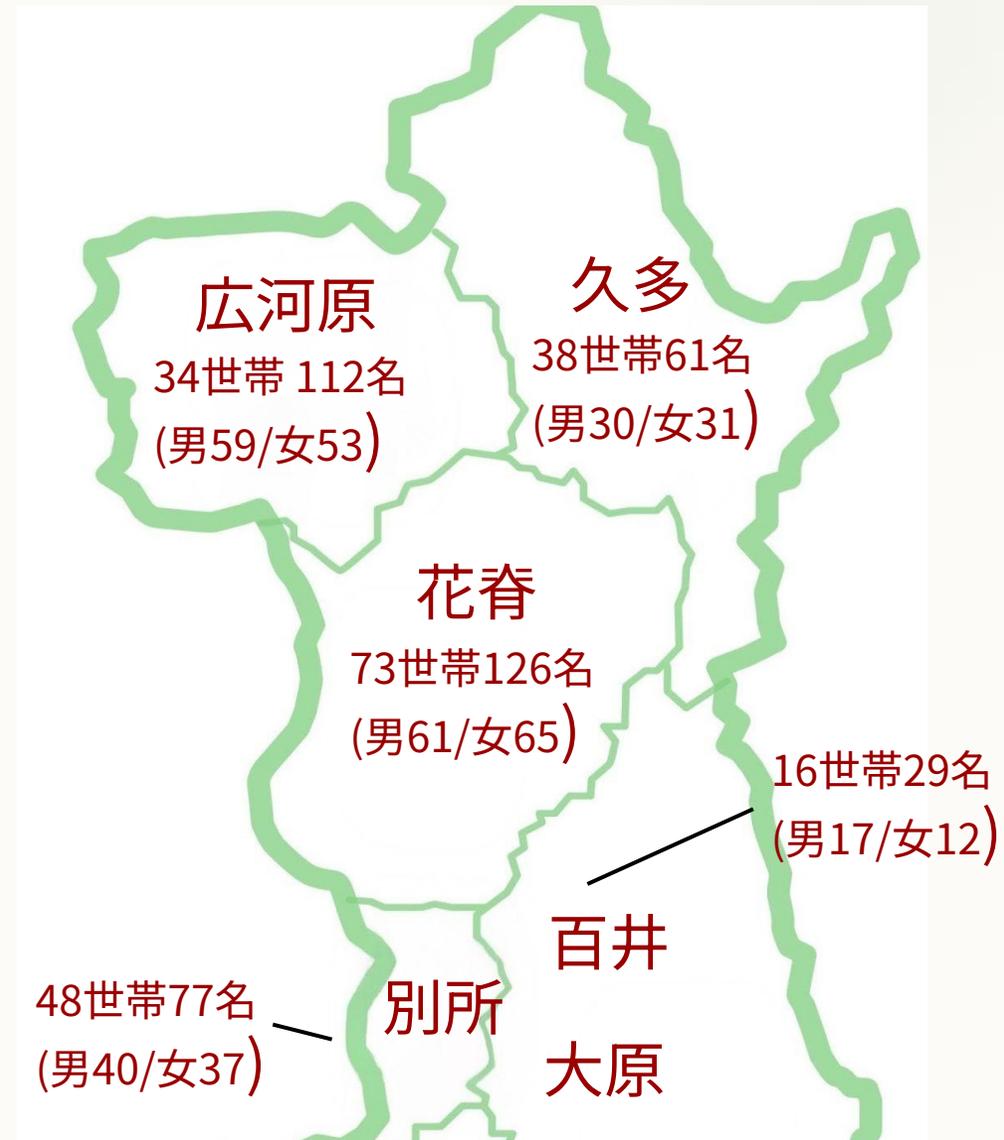
2025年12月に開催したワークショップは、将来に残したい宝物や、理想の暮らし、その実現のために必要なアクションを共に考えていく場として、地域の将来像を住民自らの手で描き出す第一歩として、左京北部山間地域自治連絡協議会が主催しました。

本報告では、皆さまから上がった意見とその分析結果を共有します。

## ◎ 地域の基礎情報（別所・花脊・広河原）

🏠 総世帯数：155世帯（別所48、花脊73、広河原34）

👤 総人口：315人（男160人、女155人）



# 本ワークショップの概要

## 本ワークショップの概要

実施日：2025年12月14日（日） 14：00～16：00

会場：京都市立花背小中学校

参加者数：31名（N=31）

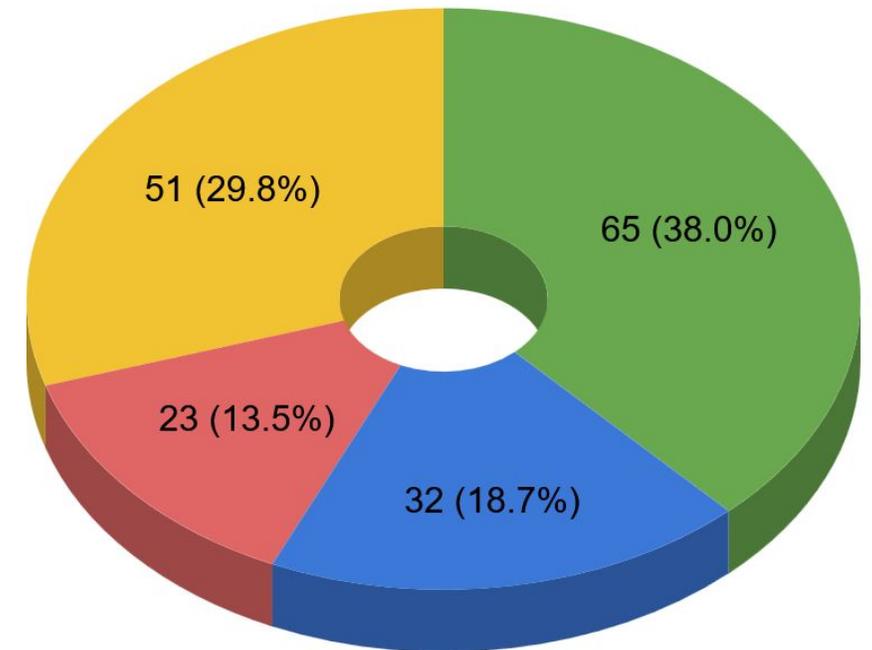
## 分析の区分

① 積極的に取り組みその効果を期待するものや、活用していききたい資源など

② 経過を観察するもの、今のままであって欲しいものなど

③ 取り組んでいるものの成果が見られないもの

④ 新たな取組として創造するもの



# カテゴリ①：積極的に取り組みその効果を期待するもの、活用していきたい資源など

## ○伝統文化の維持に関すること

- ・地域の伝統行事である「松上げ」は生きる源。
- ・地域の連帯感を生み、この地域で生まれた若者が帰ってくるきっかけとなる。

## ○交通インフラ・アクセスに関すること

- ・花脊峠のトンネル化や道路拡張を進め、交通の便を向上させる。

## ○空き家の利活用を進め、移住促進につなげること

- ・空き家の活用方法を検討し、移住の促進に努める。
- ・子育て世帯の移住促進に取り組む。
- ・土砂災害警戒区域（レッドゾーン）でも住宅が建設できるように、条件緩和や行政特区制度等の検討を行う。

## ○自然環境の保全に関すること

- ・景観維持、獣害対策のためにも人里と森林を分ける緩衝地帯を設ける。休耕田などを活用。
- ・自治会だけではなく、行政の支援も得ながら除草や河川の清掃を行う。

## ○地域の魅力を発信するイベントに関すること

- ・「左京きらり市」や「花背マルシェ」などのイベントを継続的に開催するとともに、その魅力を積極的に発信する。

## ○福祉・医療に関すること

- ・会場までの車での送迎などを含め、孤立しがちな住民が会話を楽しめる場を地域の社会福祉協議会活動として継続する。
- ・都市部（市街地）と同等の介護、医療サービスへアクセスできるよう行政や各種関係機関に要望する。

## カテゴリ②：経過を観察するもの、 今のままであって欲しいものなど

### ○各地域にある伝統文化、行事に関すること

- ・歴史があり、継続が望まれる松上げに対して、人口が減少する中で維持できるかどうか。
- ・観光資源化、商業化することなく、地域の伝統行事に外部の人にも参加してもらえよう「新しい形」の模索が必要である。

### ○花脊峠のトンネル化や道路の拡張要望活動に関すること

- ・冬でも安心して通れる地域の生活道路として、花脊峠のトンネル化や道路拡張の要望を継続する。
- ・道路拡張によりドライブコース化してしまい、日常生活に支障をきたすのではないかという懸念がある。
- ・花脊峠トンネル化の如何に関わらず、花脊峠の維持、景観的な価値を残存させる。

### ○自治会、各種団体に関すること

- ・活動実態のない団体が存在している。
- ・役職の掛け持ちが常態化している。
- ・役員の高齢化が進んでおり、新しい活動をする活力がない。
- ・既存組織の「見直し」が不可欠である。

### ○その他の意見

- ・今のまま経過観察だけではいいことはない。
- ・活性化させるだけでなく、廃村も一つの選択肢ではないか。

## カテゴリ③：取り組んでいるものの成果が見られないもの

### ○空き家問題や移住促進に関すること

- ・住んではいないが仏壇や思い出がある家の売却や貸し出しに対する拒否感がある。
- ・空き家を今の暮らしに合うよう修繕するには難しさがあり、改修が進まない。
- ・移住したい方がいても、修繕費のハードル等から、家族の合意が得られにくい。
- ・移住したとしても、次の世代（子ども世代）が住み続けることが難しい。

### ○地域にある福祉施設に関すること

- ・地元の施設を地元の人が利用できない。地元優先枠が設定されていない。

### ○自治会、各種団体に関すること

- ・「これまであったから」で活動するのではなく、実態のない組織を見直し、現在の実情に合った組織改編が必要である。
- ・別所地域では一部活動・行事をやめた実績がある。
- ・役職及び役割に対する負担を軽減しつつ、機能を継続させるにはどうしたらよいか。

### ○地域にある森林・林業と山村文化を学ぶ施設「交流の森」に関すること

- ・北部山間地域への訪問客を増やすイベントを開催してほしい。
- ・地元地域住民が野菜販売の出店をするなど、施設に関われる仕組みづくりができるとよい。

## カテゴリ④：新たな取組として創造するもの

### ○移住促進と住環境の整備に関すること

- ・冬の期間を含め、数ヶ月から1年間じっくりと過ごしてもらう。あえて冬のお試し移住を促進する。
- ・行政の支援を受けて、空き家への家賃補助や改修補助等、個人の負担（雨漏り修理など）を軽減する取組を検討する。

### ○地域にある資源を活用した観光・市場化に関すること

- ・空き家を活用したゲストハウスや農林業等体験型ツアー（国内外問わず）を実施する。
- ・地域にある多様な観光資源や炭焼き、しば漬けなど地域資源を収益化する取組（マネタリング）。
- ・住民向けの小さな商店や空き家のテナント化など地域経済の整備。

### ○世代や属性を超えたコミュニティの再編に関すること

- ・これまであった枠組みを超えた話し合いの場やコミュニティづくり。コミュニティカフェ。
- ・若い人の意見が反映され、取り入れられる仕組みづくり。

# 傾向と特徴

## ○「伝統行事や文化の継承」に関すること

松上げを「地域のアイデンティティ」として重視する一方で、高齢化と人員不足により、従来の形態での維持が困難になりつつあるという危機感が共有されている。これまでの「伝統をそのまま引き継ぐ」姿勢から、「何とかして残すためにやり方を変える（外部の参加を促す）」という、「新たな形」の模索に取り組もうとしている。

松上げは地域の観光資源であるが、一方でこれ以上の観光化や商業化は求めていないという声や、外部の参加を促したとしても「松上げ」だけのつながりで、地域とのつながりや移住に繋がるわけではないという声もある。

## ○「安心して生活できる」ための生活インフラに関すること

「安心して生活できる」ための医療・介護へのアクセスを求めている声や、交通インフラを整える声が上がった。都市部（市街地）へのアクセス向上を求め、花脊峠のトンネル化推進を望むもの、より快適に運転できるよう峠道の道路拡張整備を望むもの、道路拡張によるドライブコース化を危惧し現状を維持したいものなど、交通インフラ整備に対する意見は分かれている。しかし、その背景には「いずれの選択であれ、地域住民が安心して日々の生活を送りたい」という共通の願いがある。

## ○自治会・組織団体の限界に関すること

「やめたいけれど、やめられない」という葛藤の中にある。担い手の高齢化や役員の掛け持ちが常態化しており、組織の再編や活動の精査が急務となっている。

## ○空き家問題における期待と感情との乖離に関すること

地域としては「入居してほしい」と考えているものの、所有者個人としては「手放せない」という、活用の必要性と思い出との間での葛藤が見られる。

# そのほかの意見

## ① 積極的に取り組みその効果を期待するもの

- 河川の掃除や雑木の伐採: 年2回の河川の掃除や景観、災害対策のための河岸の雑木伐採の推進。
- 伝統産業の再生: かつて一大産業だったチマキザサの再生事業（現在進行中）の規模を拡大する。
- 神社復興: 台風で倒壊した神社の再建活動を進める。
- 情報発信: SNSを活用して地域の魅力（景色、人間関係のよさ）を発信する。

## ② 経過を観察するもの・今のままであって欲しいもの

- 地域コミュニティ: 「愛宕講」等の地域住民が集まり、情報交換できる場。
- 小中学校・保育所: 少人数教育などの魅力的な教育環境を地域で維持する。
- 自然環境: 現存する自然を維持したいが、維持・管理への課題認識がある。

## ③ 取り組んでいるものの成果が見られないもの

- 関係人口づくり: 「きらり市」等のイベントなどで取り組んでいるが、さらなる取り組みが必要。
- 止めるものはすでに止めてきた: 地域全体で人が減り、縮み、課題が増えている中で、これ以上「取りやめる」という議論は起こりえない。

## ④ 新たな取組として創造するもの

- 交流の森宿泊施設やキャンプ場: 翠峰荘の復活やグランピング、キャンプができる場の整備。
- 遠隔医療体制の整備: 夜間の救急ヘリやオンライン診療を取り入れる。
- 意見できる場づくり: 地域住民がやりたいことを自由に話し合い、その意見が形になるような仕組みづくり。